

<b>+第6学年 絵・立体</b>	<b>題材名 ぼくじゅうで、ぼくじゅうぶん</b>
<b>【授業会場】</b> 家庭科室	<b>【時間】</b> 第○校時
<b>【指導者】</b> ○○ ○○	<b>【児童】</b> 6年○組
<b>【授業協議会・分科会会場】</b> (家庭科室)	

## 1 題材について

### ○題材観

本題材は、小学校学習指導要領図画工作第5学年及び第6学年の内容A表現(1)イと(2)イ及び、B鑑賞(1)ア〔共通事項〕(1)ア、イを受けて設定した。

この題材は、墨と水のできる濃淡や使う用具のできる多様な形を感じ取りながら、発想を広げ、自ら表現をつくりだしたり、作品から自分の見方や感じ方を深めたりすることをねらいとしている。児童は、社会科の学習で水墨画が身近なふすまや掛け軸などに使われていることを学習している。また、墨は、書写の学習で文字を書く際の馴染み深い材料ではあるが、今回は、絵の具の代わりに使うことで、墨の濃淡や、墨と水の加減によってにじんだりかすれたりするよさや美しさを試しながら感じ取って表現に活かすことができ、改めて興味をもちながら活動することができる題材である。

### ○児童観

本学級の児童は、「図画工作科の授業が好きですか。」の問いに肯定的な回答をした児童が77.8%であった。表したいことはあるが思った通りの表現ができないという点から苦手意識をもっている児童もいたため、本題材では、試したことの中から表したいことを見つけられるような活動を設定した。

「知識」に関しては、形から感じる動きや、色の連続によって感じるリズムや奥行きなどの造形的な特徴について、これまでの学習を通して理解している児童が多い。

「技能」に関しては、表したいことはあるが思った通りの表現ができないという点から苦手意識をもっている児童がいる。そのため、自分の思いを表すための方法が増えるように、年度当初に、第4学年で学習した技法を試す活動をもう一度行った。また、パスやコンテの使い方についても基本的な使い方から改めて確認し、試したり組み合わせたりして自由な発想で思いに合わせて表現できるように経験を重ねてきた。さらに、どの題材の学習においても、複数の用具を準備し、表現したい思いに合わせて、表現方法を選択し、用具を活用してきた。画用紙などの材料のサイズや量なども実態に合わせて様々なものを用意し、思いに合わせて選択する経験をしている。これらの積み重ねによって、児童は、前学年までの経験や技能を基に、表現したいことに合わせて、自分で表現方法を選択して表す児童が増えてきている。

「発想・構想【思・判・表】」に関しては、「音の絵」を学習した際、音という目に見えないものを形や色で表現することに前向きに取り組み、表現の意図や表し方について言葉で説明することのできる児童が多くいた。感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけ、どのように主題を表すかについて考えることができる児童が多い。

「鑑賞【思・判・表】」に関しては、「この筆あと、どんな空？」で様々な美術作品の表現方法の違いや特徴による美しさを感じ取り、表現した人の考えに思いを巡らせた。また、「ひろしま美術館」へ見学に行った際、浮世絵を通して社会的、文化的な関心にも対応した鑑賞をすることができた。親しみのある作品を進んで見ることで、自分の見方や感じ方を深めることができた。

### ○指導観

指導に当たっては、墨と水という限られた材料や用具でも表し方によって思いがけない表現が生まれるよさや楽しさを感じ取れるよう、試す時間を十分に取り、こだわった作品に仕上げられるように指導していく。

「知識」の指導に関しては、導入で作品例から題名を想像し、表現の意図や表現方法について考える。その際に、墨の濃淡やにじみ、かすれ、描線のスピード、筆遣いなどの児童の気づきをまとめ、本時に掲示する。

「技能」の指導に関しては、濃度の異なる墨や太さの異なる筆や刷毛などを用意することで、前学

年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりすることができるようにする。また、大きな障子紙を用いてグループで活動を行い、全身の感覚を働かせながら技能を試せるようにする。

「発想・構想【思・判・表】」の指導に関しては、墨との出会いから工夫したい。固形墨を硯で磨いているところを実演することで、徐々に水滴に墨が混ざり、濃淡を感じることから構想につなげる。また、様々な技法を自由に試す活動を行う中で発想が広がるように指導する。

「鑑賞【思・判・表】」に関しては、自分と友人との表し方の違いを感じられるよう、全活動をグループ机で行い、動線にも配慮した場の設定を行う。また、活動の中で感じたことを共有する時間を設ける。

## 2 題材の目標

### (1) 知識及び技能

- ・ 墨と水を使って、思いを広げて表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランスなどを理解する。
- ・ 表現方法に応じて墨を活用するとともに、これまで筆を活用した経験やその技能を生かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて工夫する。

### (2) 思考力、判断力、表現力

- ・ 動き、奥行き、バランスなどを基に、自分のイメージをもつ。
- ・ 墨でかいて感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。
- ・ 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

### (3) 学びに向かう力、人間性等

- ・ 主体的に墨と水を使い、試しながら思いを広げて表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。

## 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 墨と水を使って、思いを広げて表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランスなどを理解している。</li> <li>・ 表現方法に応じて墨を活用するとともに、これまで筆を活用した経験やその技能を生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 墨でかいて感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけ、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。</li> <li>・ 動き、奥行き、バランスなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つくりだす喜びを味わい主体的に墨と水を使い、試しながら思いを広げて表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

4 指導と評価の計画（全4時間）

時間	めあて 学習活動	評価の観点、評価方法等				態
		知 知識	技 技能	墨 発想や構想	鑑賞	
1	「濃淡」や「筆あと」から作者の思いをみつけよう ・墨と出会い、色の出し方を知る。 ・作品を鑑賞し、作品名を考える。どこからそう感じたか、表現した人の思いや技法に思いを巡らせる。	○			○	↓ ◎ 観察 対話 作品 ワークシート
2 本時	「濃淡」や「筆あと」を意識していろいろな表現や技（ワザ）を試そう ・大きな半紙に、試し活動をする。 ・お気に入りの表し方を見つける。		○	○		
3	「濃淡」や「筆あと」を意識した表現や技（ワザ）を生かして表そう ・半紙や様々な大きさの和紙、様々な太さの筆から使いたいものを選び、こだわって作品をつくる。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品		
4	「墨の美術館」を開こう ・お気に入りの作品を見つける。 ・自分や友人の作品を見て、自分の見方や感じ方を広げる。				◎ 観察 対話 ワークシート	

○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す。

5 本時の目標

濃淡や筆あとを意識しながら障子紙に様々な表現方法や技を試したことから、表したいことを見つける。

6 準備物

青墨、硯、筆、小筆、大筆、刷毛、半紙、障子紙、新聞紙、雑巾、プラコップ、バケツ

7 本時の学習展開（2時間目/全4時間）

学習活動	◇指導の工夫 ◆努力を要すると判断される児童への手立て	評価規準（評価の方法）
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。	◇前時の濃淡やにじみ、かすれなどを試した表現をまとめて掲示し、墨と水で様々な表現ができることを確認する。	
「濃淡」や「筆あと」を意識していろいろな表現やワザを試そう		
2 グループで半紙に濃さの異なる墨を試し、濃淡に気付く。	◇最初に濃淡を全体で確認することで、濃淡を意識しながら取り組むことができるようにする。 ◆水の加減が難しい児童もいるため、様々な濃さの墨を用意する。	

<p>3 濃淡や筆あとを意識しながら障子紙に様々な表現方法や技を試す。</p> <p>4 作品名を付け、グループで交流する。</p> <p>5 全体交流する。</p> <p>6 片付けをする。</p>	<p>◇大きな紙にグループで試し活動を行うことで、技や感じ方などを共有し、表現を広げることができるようにする。</p> <p>◇用具コーナーを設け、用具の種類を選択できるようにする。その際、他グループの活動を見に行ってもよい事を伝える。</p> <p>◇試し活動でできた作品から作品名をつけることで、濃淡や筆あとを意識しながら鑑賞することができるようにする。</p> <p>◇全体で、作品と試した技を紹介し合うことで、新たな表現方法に気付くことができるようにする。</p>	<p><b>技能</b> これまで筆を活用した経験やその技能を生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして表している。 (観察、対話、作品) ○</p> <p><b>発想や構想</b> 墨でかいて感じたこと、想像したこと、見たことから、自分のイメージをもちながら、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 (観察、対話、作品) ○</p>
<p>&lt;学びが深まった姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな濃淡や筆あとができるんだ！もっと試したい。</li> <li>・この濃淡や筆あとが〇〇のように感じる（〇〇のように見える）。</li> </ul>		

## 8 板書計画

ぼくじゅうで、ぼくじゅうぶん

前時に鑑賞した作品

④「濃淡」や「筆あと」を意識していろいろな表現やワザを試そう

濃淡

- ・濃い⇔薄い
- ・淡い
- ・あざやか
- ・ぼんやり
- ・はっきり
- ・にじみ
- ・かすれ

筆あと

- ・ちよんちよん
- ・ぐるぐる
- ・うねうね
- ・まっすぐ

1, 作品名  
2, その作品名を付けた理由  
3, 試したワザの紹介

について話し合おう